

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
1	メイソンド川広	南区東雲三丁目6-12	共同住宅	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.009 q=0.03			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋3階 Is=0.02 q=0.09 塔屋2階 Is=0.01 q=0.06 塔屋1階 Is=0.009 q=0.03 9階 Is=0.35 q=1.43 8階 Is=0.27 q=1.09 7階 Is=0.28 q=1.15 6階 Is=0.26 q=1.05 5階 Is=0.29 q=1.17 4階 Is=0.33 q=1.33 3階 Is=0.30 q=1.22 2階 Is=0.29 q=1.17 1階 Is=0.27 q=1.09 Y方向 塔屋3階 Is=0.15 q=0.61 塔屋2階 Is=0.10 q=0.42 塔屋1階 Is=0.08 q=0.32 9階 Is=0.46 q=1.87 8階 Is=0.34 q=1.36 7階 Is=0.35 q=1.41 6階 Is=0.30 q=1.22 5階 Is=0.30 q=1.23 4階 Is=0.32 q=1.30 3階 Is=0.29 q=1.19 2階 Is=0.34 q=1.38 1階 Is=0.61 q=2.46
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.66 Is/Is0=1.1 Ctu・SD=0.78			
2	舟入コーボラス	中区舟入本町6番地19	店舗、事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断」	Is=0.96 Is/Is0=1.2			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.8 X方向 塔屋2階 Is=1.58 塔屋1階 Is=1.31 Y方向 塔屋2階 Is=1.10 塔屋1階 Is=0.96
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.10 Is/Is0=0.16 Ctu・SD=0.12			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 7階 Is=1.30 Ctu・SD=1.29 6階 Is=0.83 Ctu・SD=0.83 5階 Is=0.67 Ctu・SD=0.67 4階 Is=0.62 Ctu・SD=0.62 3階 Is=0.36 Ctu・SD=0.45 2階 Is=0.14 Ctu・SD=0.17 1階 Is=0.17 Ctu・SD=0.17 Y方向 7階 Is=0.21 Ctu・SD=0.21 6階 Is=0.17 Ctu・SD=0.17 5階 Is=0.12 Ctu・SD=0.12 4階 Is=0.10 Ctu・SD=0.13 3階 Is=0.11 Ctu・SD=0.15 2階 Is=0.12 Ctu・SD=0.15 1階 Is=0.10 Ctu・SD=0.13

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
3	上野ビル	南区仁保新町二丁目1660番地1、1660番地3	共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.23 Is/Is0=0.38 Ctu・SD=0.25			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 7階 Is=0.48 Ctu・SD=0.64 6階 Is=0.34 Ctu・SD=0.46 5階 Is=0.35 Ctu・SD=0.46 4階 Is=0.28 Ctu・SD=0.37 3階 Is=0.40 Ctu・SD=0.54 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.49 1階 Is=0.35 Ctu・SD=0.38 Y方向 7階 Is=0.70 Ctu・SD=0.93 6階 Is=0.45 Ctu・SD=0.60 5階 Is=0.38 Ctu・SD=0.50 4階 Is=0.28 Ctu・SD=0.38 3階 Is=0.46 Ctu・SD=0.61 2階 Is=0.40 Ctu・SD=0.53 1階 Is=0.23 Ctu・SD=0.25
4	ISビル	南区東雲本町二丁目716番地1	事務所、共同住宅	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断」	Is=0.61			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋2階 Is=0.89 塔屋1階 Is=0.83 Y方向 塔屋2階 Is=0.61 塔屋1階 Is=0.73
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.20 q=0.67			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 10階 Is=0.42 q=0.67 9階 Is=0.42 q=0.67 8階 Is=0.42 q=0.67 7階 Is=0.42 q=0.67 6階 Is=0.42 q=0.67 5階 Is=0.42 q=0.67 4階 Is=0.42 q=0.67 3階 Is=0.42 q=0.67 2階 Is=0.42 q=0.67 1階 Is=0.20 q=0.67 Y方向 10階 Is=0.42 q=0.67 9階 Is=0.42 q=0.67 8階 Is=0.42 q=0.67 7階 Is=0.42 q=0.67 6階 Is=0.42 q=0.67 5階 Is=0.42 q=0.67 4階 Is=0.42 q=0.67 3階 Is=0.42 q=0.67 2階 Is=0.42 q=0.67 1階 Is=0.20 q=0.67

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
5	パラッソ昭和町	中区昭和町8番5	共同住宅、店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断」	Is=0.80 Is/Is0=1.00			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋2階 Is= 1.31 塔屋1階 Is= 0.80 Y方向 塔屋2階 Is= 0.80 塔屋1階 Is= 1.60
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.31 Is/Is0=0.51 Ctu・SD=0.31			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 9階 Is= 0.46 Ctu・SD= 0.45 8階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.32 7階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.31 6階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.32 5階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.31 Y方向 9階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.32 8階 Is= 1.42 Ctu・SD= 1.36 7階 Is= 1.06 Ctu・SD= 1.02 6階 Is= 0.95 Ctu・SD= 0.90 5階 Is= 0.63 Ctu・SD= 0.61
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.53 Is/Is0=0.88 Ctu・SD=0.27			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 4階 Is= 0.54 Ctu・SD= 0.42 3階 Is= 0.58 Ctu・SD= 0.44 2階 Is= 0.53 Ctu・SD= 0.27 1階 Is= 0.90 Ctu・SD= 0.68 Y方向 4階 Is= 1.05 Ctu・SD= 0.79 3階 Is= 0.92 Ctu・SD= 0.69 2階 Is= 0.88 Ctu・SD= 0.66 1階 Is= 0.66 Ctu・SD= 0.50
6	平和ビル	中区舟入本町7-22	共同住宅、事務所、店舗	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合 ただし、塔屋2階は「第1次診断」	Is=0.35 Is/Is0=0.43			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋2階 Is= 0.35 Y方向 塔屋2階 Is= 0.44
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.29 Is/Is0=0.48 Ctu・SD=0.22			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 塔屋1階 Is= 0.82 Ctu・SD= 0.79 9階 Is= 1.16 Ctu・SD= 0.89 8階 Is= 0.57 Ctu・SD= 0.43 7階 Is= 0.44 Ctu・SD= 0.34 6階 Is= 0.39 Ctu・SD= 0.30 5階 Is= 0.36 Ctu・SD= 0.27 4階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.22 3階 Is= 0.47 Ctu・SD= 0.36 2階 Is= 0.46 Ctu・SD= 0.34 1階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.26 地下1階 Is= 0.43 Ctu・SD= 0.33 Y方向 塔屋1階 Is= 0.65 Ctu・SD= 0.63 9階 Is= 0.74 Ctu・SD= 0.56 8階 Is= 0.69 Ctu・SD= 0.52 7階 Is= 0.67 Ctu・SD= 0.51 6階 Is= 0.58 Ctu・SD= 0.44 5階 Is= 0.53 Ctu・SD= 0.41 4階 Is= 0.38 Ctu・SD= 0.28 3階 Is= 0.38 Ctu・SD= 0.29 2階 Is= 0.36 Ctu・SD= 0.27 1階 Is= 0.37 Ctu・SD= 0.28 地下1階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.24

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
7	ピアザ昭和	南区東雲三丁目7番12号	事務所、共同住宅	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が非充腹材の場合	Is=0.37 Is/Is0=0.61 Ctu・SD=0.29			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 塔屋 階 Is= 1.18 Ctu・SD= 0.93 10 階 Is= 1.37 Ctu・SD= 1.08 9 階 Is= 0.80 Ctu・SD= 0.63 8 階 Is= 0.65 Ctu・SD= 0.51 7 階 Is= 0.57 Ctu・SD= 0.45 6 階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.40 5 階 Is= 0.52 Ctu・SD= 0.41 4 階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.40 3 階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.33 2 階 Is= 0.45 Ctu・SD= 0.45 1 階 Is= 0.64 Ctu・SD= 0.49 Y方向 塔屋 階 Is= 1.06 Ctu・SD= 0.49 10 階 Is= 1.37 Ctu・SD= 1.02 9 階 Is= 0.86 Ctu・SD= 0.65 8 階 Is= 0.69 Ctu・SD= 0.53 7 階 Is= 0.67 Ctu・SD= 0.52 6 階 Is= 0.58 Ctu・SD= 0.45 5 階 Is= 0.56 Ctu・SD= 0.44 4 階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.40 3 階 Is= 0.37 Ctu・SD= 0.29 2 階 Is= 0.63 Ctu・SD= 0.49 1 階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.39
8	でしおドルフ	南区出汐四丁目678番地1、676番地1	店舗、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.75 Is/Is0=0.93			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋2 階 Is= 0.75 塔屋1 階 Is= 1.81 Y方向 塔屋2 階 Is= 0.94 塔屋1 階 Is= 1.07
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.10 Is/Is0=0.16 Ctu・SD=0.10			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 7 階 Is= 0.45 Ctu・SD= 0.46 6 階 Is= 0.35 Ctu・SD= 0.35 5 階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.32 4 階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.27 3 階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.24 2 階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.23 1 階 Is= 0.35 Ctu・SD= 0.35 Y方向 7 階 Is= 1.55 Ctu・SD= 1.54 6 階 Is= 1.01 Ctu・SD= 1.01 5 階 Is= 0.82 Ctu・SD= 0.82 4 階 Is= 0.65 Ctu・SD= 0.65 3 階 Is= 0.67 Ctu・SD= 0.66 2 階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.31 1 階 Is= 0.10 Ctu・SD= 0.10
9	イーストクラウド	南区東雲本町三丁目664番地1	店舗、住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.77 Is/Is0=0.96			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋 階 Is= 0.77 Y方向 塔屋 階 Is= 1.32
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.27 Is/Is0=0.45 Ctu・SD=0.26			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 5 階 Is= 0.92 Ctu・SD= 0.90 4 階 Is= 0.63 Ctu・SD= 0.60 3 階 Is= 0.61 Ctu・SD= 0.59 2 階 Is= 0.47 Ctu・SD= 0.45 1 階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.26 Y方向 5 階 Is= 0.59 Ctu・SD= 0.57 4 階 Is= 0.41 Ctu・SD= 0.39 3 階 Is= 0.36 Ctu・SD= 0.36 2 階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.31 1 階 Is= 0.73 Ctu・SD= 0.70

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
10	鷹の橋パーキングビル	中区大手町五丁目2-17	事務所、診療所	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.08 q=0.33			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋 階 Is= 0.09 q= 0.38 6 階 Is= 0.13 q= 0.55 5 階 Is= 0.13 q= 0.55 4 階 Is= 0.13 q= 0.55 3 階 Is= 0.13 q= 0.55 2 階 Is= 0.13 q= 0.55 1 階 Is= 0.13 q= 0.55 Y方向 塔屋 階 Is= 0.02 q= 0.11 6 階 Is= 0.08 q= 0.33 5 階 Is= 0.08 q= 0.34 4 階 Is= 0.08 q= 0.34 3 階 Is= 0.08 q= 0.34 2 階 Is= 0.08 q= 0.34 1 階 Is= 0.08 q= 0.34
11	新光ビル	中区舟入中町7番地4、7番地5	共同住宅、事務所	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.26 Is/Is0=0.43 Ctu・SD=0.26			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋 階 Is= 1.02 Ctu・SD= 0.68 7 階 Is= 0.37 Ctu・SD= 0.37 6 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.26 5 階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.28 4 階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.29 3 階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.29 2 階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.34 1 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.26 Y方向 塔屋 階 Is= 0.71 Ctu・SD= 0.70 7 階 Is= 1.03 Ctu・SD= 1.02 6 階 Is= 0.66 Ctu・SD= 0.66 5 階 Is= 0.54 Ctu・SD= 0.54 4 階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.49 3 階 Is= 0.55 Ctu・SD= 0.55 2 階 Is= 0.59 Ctu・SD= 0.59 1 階 Is= 0.65 Ctu・SD= 0.65
12	第2小谷ビル	南区仁保新町二丁目1988の1及3、1993の1及3	倉庫、事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.23 Is/Is0=0.28  Is=0.21 Is/Is0=0.35 Ctu・SD=0.22			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.8 X方向 塔屋2 階 Is= 1.05 塔屋1 階 Is= 0.52 Y方向 塔屋2 階 Is= 0.23 塔屋1 階 Is= 0.36 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 6 階 Is= 0.80 Ctu・SD= 0.83 5 階 Is= 0.54 Ctu・SD= 0.56 4 階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.43 3 階 Is= 0.41 Ctu・SD= 0.42 2 階 Is= 0.47 Ctu・SD= 0.49 1 階 Is= 0.63 Ctu・SD= 0.65 Y方向 6 階 Is= 0.42 Ctu・SD= 0.43 5 階 Is= 0.23 Ctu・SD= 0.24 4 階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.22 3 階 Is= 0.39 Ctu・SD= 0.29 2 階 Is= 0.67 Ctu・SD= 0.34 1 階 Is= 0.54 Ctu・SD= 0.31

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
13	田口ビル	南区仁保新町一丁目1209-1	事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.26 Is/Is0=0.43 Ctu・SD=0.27			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋2階 Is=0.76 Ctu・SD=0.76 塔屋1階 Is=0.23 Ctu・SD=0.24 5階 Is=0.35 Ctu・SD=0.36 4階 Is=0.28 Ctu・SD=0.28 3階 Is=0.29 Ctu・SD=0.30 2階 Is=0.26 Ctu・SD=0.27 1階 Is=0.30 Ctu・SD=0.31 Y方向 塔屋2階 Is=2.02 Ctu・SD=2.03 塔屋1階 Is=1.35 Ctu・SD=1.35 5階 Is=0.54 Ctu・SD=0.68 4階 Is=0.56 Ctu・SD=0.57 3階 Is=0.57 Ctu・SD=0.58 2階 Is=0.35 Ctu・SD=0.36 1階 Is=0.31 Ctu・SD=0.40
14	堀田建設株式会社ビル	南区出汐二丁目829番地3	事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.73 Is/Is0=1.01  Is=0.19 Is/Is0=0.35 Ctu・SD=0.21			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.72 X方向 塔屋階 Is=0.73 Y方向 塔屋階 Is=0.78 耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 6階 Is=0.43 Ctu・SD=0.57 5階 Is=0.32 Ctu・SD=0.43 4階 Is=0.19 Ctu・SD=0.25 3階 Is=0.24 Ctu・SD=0.25 2階 Is=0.25 Ctu・SD=0.26 1階 Is=0.32 Ctu・SD=0.34 Y方向 6階 Is=0.42 Ctu・SD=0.44 5階 Is=0.33 Ctu・SD=0.34 4階 Is=0.25 Ctu・SD=0.26 3階 Is=0.22 Ctu・SD=0.23 2階 Is=0.20 Ctu・SD=0.21 1階 Is=0.22 Ctu・SD=0.30
15	富士開発ビル	中区大手町五丁目3番10、11	事務所、共同住宅	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.24 Is/Is0=0.40 Ctu・SD=0.18			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.6 X方向 塔屋2階 Is=0.99 Ctu・SD=0.76 塔屋1階 Is=0.74 Ctu・SD=0.57 10階 Is=1.18 Ctu・SD=0.90 9階 Is=0.73 Ctu・SD=0.56 8階 Is=0.63 Ctu・SD=0.48 7階 Is=0.61 Ctu・SD=0.47 6階 Is=0.55 Ctu・SD=0.42 5階 Is=0.24 Ctu・SD=0.18 4階 Is=0.39 Ctu・SD=0.30 3階 Is=0.36 Ctu・SD=0.28 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.28 1階 Is=0.36 Ctu・SD=0.27 Y方向 塔屋2階 Is=0.58 Ctu・SD=0.44 塔屋1階 Is=0.44 Ctu・SD=0.33 10階 Is=0.78 Ctu・SD=0.59 9階 Is=0.71 Ctu・SD=0.54 8階 Is=0.67 Ctu・SD=0.51 7階 Is=0.65 Ctu・SD=0.49 6階 Is=0.58 Ctu・SD=0.44 5階 Is=0.58 Ctu・SD=0.44 4階 Is=0.60 Ctu・SD=0.46 3階 Is=0.55 Ctu・SD=0.42 2階 Is=0.45 Ctu・SD=0.34 1階 Is=0.27 Ctu・SD=0.21

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
16	YSビル	中区大手町五丁目3-16	車庫、事務所、共同住宅	別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合 ただし、塔屋(1)、塔屋(2)、地下階は「第1次診断法」	Is=1.38 Is/Is0=1.91			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 塔屋(1) Is= 1.38 塔屋(2) Is= 2.38 Y方向 塔屋(1) Is= 1.88 塔屋(2) Is= 2.50
					Is=0.26 Is/Is0=0.48 Ctu・SD=0.11			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 9階 Is= 0.80 Ctu・SD= 0.23 8階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.15 7階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.16 6階 Is= 0.52 Ctu・SD= 0.18 5階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.17 4階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.17 3階 Is= 0.59 Ctu・SD= 0.24 2階 Is= 0.55 Ctu・SD= 0.23 Y方向 1階 Is= 0.60 Ctu・SD= 0.24 9階 Is= 0.58 Ctu・SD= 0.24 8階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.20 7階 Is= 0.48 Ctu・SD= 0.19 6階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.20 5階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.20 4階 Is= 0.45 Ctu・SD= 0.18 3階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.13 2階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.11 1階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.22
					Is=1.05 Is/Is0=1.45			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 地下階 Is= 1.20 Y方向 地下階 Is= 1.05
17	共同住宅、事務所ビル	中区舟入中町11番	共同住宅、事務所	別表2(4-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法 ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.80 Is/Is0=1.00			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋階 Is= 0.95 Y方向 塔屋階 Is= 0.80
					Is=0.07 Is/Is0=0.11 Ctu・SD=0.04			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 9階 Is= 0.07 Ctu・SD= 0.04 8階 Is= 0.11 Ctu・SD= 0.07 7階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.08 6階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.09 5階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.38 4階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.18 3階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.26 2階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.24 1階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.19 Y方向 9階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.20 8階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.18 7階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.17 6階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.14 5階 Is= 0.41 Ctu・SD= 0.32 4階 Is= 0.38 Ctu・SD= 0.29 3階 Is= 0.46 Ctu・SD= 0.35 2階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.24 1階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.14
					Is=1.31			耐震診断の結果(詳細) Is0=1.0 X方向 地下1階 Is= 1.52 Y方向 地下1階 Is= 1.31

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
18	第三山下ビル	西区観音本町一丁目15番地10、15番地11	店舗、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.27 Is/Is0=0.50 Ctu・SD=0.20			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 塔屋 階 Is= 1.84 Ctu・SD= 1.96 6 階 Is= 1.00 Ctu・SD= 1.07 5 階 Is= 0.66 Ctu・SD= 0.70 4 階 Is= 0.49 Ctu・SD= 0.52 3 階 Is= 0.46 Ctu・SD= 0.49 2 階 Is= 0.41 Ctu・SD= 0.44 1 階 Is= 0.46 Ctu・SD= 0.49 Y方向 塔屋 階 Is= 1.30 Ctu・SD= 0.68 6 階 Is= 0.61 Ctu・SD= 0.28 5 階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.28 4 階 Is= 0.38 Ctu・SD= 0.20 3 階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.28 2 階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.26 1 階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.29
19	医療法人社団成仁会 中高下整形外科医院	西区観音本町二丁目13番地2、13番地1、13番地11	病院	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=1.51 Is/Is0=1.88			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋 階 Is= 2.95 Y方向 塔屋 階 Is= 1.51 耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 6 階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.34 5 階 Is= 0.71 Ctu・SD= 0.72 4 階 Is= 0.44 Ctu・SD= 0.46 3 階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.35 2 階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.37 1 階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.28 Y方向 6 階 Is= 0.52 Ctu・SD= 0.34 5 階 Is= 0.43 Ctu・SD= 0.45 4 階 Is= 0.46 Ctu・SD= 0.48 3 階 Is= 0.45 Ctu・SD= 0.47 2 階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.52 1 階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.31
20	田中興産本社ビル	西区南観音三丁目715番地3、714番地1、714番地5、714番地6、714番地7、714番地8、714番地9、714番地10、715番地1、715番地4	店舗、事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.08 Is/Is0=0.13 Ctu・SD=0.11			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 塔屋2 階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.25 塔屋1 階 Is= 0.08 Ctu・SD= 0.11 6 階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.21 5 階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.18 4 階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.16 3 階 Is= 0.17 Ctu・SD= 0.18 2 階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.20 1 階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.29 Y方向 塔屋2 階 Is= 1.02 Ctu・SD= 0.68 塔屋1 階 Is= 0.24 Ctu・SD= 0.25 6 階 Is= 0.29 Ctu・SD= 0.30 5 階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.23 4 階 Is= 0.16 Ctu・SD= 0.20 3 階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.22 2 階 Is= 0.38 Ctu・SD= 0.38 1 階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.20



【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
21	バリュービル観音	西区南観音三丁目721番地16、721番地9、721番地17	共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」(2001年版)	Is=0.91 Is/Is0=1.13			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.8 X方向 塔屋 階 Is= 0.91 Y方向 塔屋 階 Is= 1.01
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.26 Is/Is0=0.43 Ctu・SD=0.26			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 10 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.26 9 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.32 8 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.31 7 階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.33 Y方向 10 階 Is= 0.68 Ctu・SD= 0.67 9 階 Is= 0.68 Ctu・SD= 0.67 8 階 Is= 0.69 Ctu・SD= 0.68 7 階 Is= 0.68 Ctu・SD= 0.67
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.26 Is/Is0=0.43 Ctu・SD=0.22			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 6 階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.24 5 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.22 4 階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.22 3 階 Is= 0.36 Ctu・SD= 0.26 2 階 Is= 0.47 Ctu・SD= 0.32 Y方向 1 階 Is= 0.60 Ctu・SD= 0.41 6 階 Is= 0.87 Ctu・SD= 0.59 5 階 Is= 0.87 Ctu・SD= 0.59 4 階 Is= 0.87 Ctu・SD= 0.59 3 階 Is= 0.87 Ctu・SD= 0.59 2 階 Is= 0.87 Ctu・SD= 0.59 1 階 Is= 0.89 Ctu・SD= 0.61
22	グレイス舟入	中区舟入本町7番28号	共同住宅・車庫	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.32 q=0.51			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.6 X方向 塔屋3 階 Is= 1.72 q= 2.75 塔屋2 階 Is= 0.80 q= 1.29 塔屋1 階 Is= 0.46 q= 0.75 11 階 Is= 0.34 q= 0.54 10 階 Is= 0.42 q= 0.67 9 階 Is= 0.45 q= 0.73 8 階 Is= 0.48 q= 0.76 7 階 Is= 0.49 q= 0.78 6 階 Is= 0.50 q= 0.80 5 階 Is= 0.51 q= 0.81 4 階 Is= 0.51 q= 0.82 3 階 Is= 0.52 q= 0.83 2 階 Is= 0.52 q= 0.83 1 階 Is= 0.47 q= 0.83 Y方向 塔屋3 階 Is= 1.21 q= 1.94 塔屋2 階 Is= 0.56 q= 0.91 塔屋1 階 Is= 0.37 q= 0.60 11 階 Is= 0.32 q= 0.51 10 階 Is= 0.39 q= 0.63 9 階 Is= 0.43 q= 0.69 8 階 Is= 0.45 q= 0.72 7 階 Is= 0.46 q= 0.74 6 階 Is= 0.47 q= 0.75 5 階 Is= 0.48 q= 0.77 4 階 Is= 0.48 q= 0.77 3 階 Is= 0.46 q= 0.73 2 階 Is= 0.49 q= 0.78 1 階 Is= 0.45 q= 0.79

【路線名：国道2号】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
23	バラッオ国泰寺	中区国泰寺町二丁目2番28号	共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」(2001年版)	Is=0.47 Is/Iso=0.58			耐震診断の結果(詳細):高層棟 Iso=0.8 X方向 塔屋2階 Is= 1.90 塔屋1階 Is= 0.47 Y方向 塔屋2階 Is= 0.96 塔屋1階 Is= 0.69
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.18 q=0.74			耐震診断の結果(詳細):高層棟 Iso=0.6 X方向 13階 Is= 0.32 q= 1.32 12階 Is= 0.31 q= 1.30 11階 Is= 0.23 q= 0.95 10階 Is= 0.25 q= 1.05 9階 Is= 0.23 q= 0.96 8階 Is= 0.24 q= 0.99 7階 Is= 0.20 q= 0.83 6階 Is= 0.23 q= 0.94 5階 Is= 0.20 q= 0.83 4階 Is= 0.23 q= 0.95 3階 Is= 0.26 q= 1.10 2階 Is= 0.30 q= 1.22 1階 Is= 0.28 q= 1.19 Y方向 13階 Is= 0.53 q= 1.05 12階 Is= 0.65 q= 1.08 11階 Is= 0.61 q= 0.98 10階 Is= 0.64 q= 1.03 9階 Is= 0.55 q= 0.89 8階 Is= 0.58 q= 0.94 7階 Is= 0.61 q= 0.98 6階 Is= 0.61 q= 1.00 5階 Is= 0.63 q= 1.02 4階 Is= 0.63 q= 1.02 3階 Is= 0.67 q= 1.08 2階 Is= 0.20 q= 0.81 1階 Is= 0.18 q= 0.74
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.45 q=2.08			耐震診断の結果(詳細):低層棟 Iso=0.6 X方向 2階 Is= 3.01 q= 4.16 1階 Is= 0.62 q= 2.09 Y方向 2階 Is= 1.03 q= 4.72 1階 Is= 0.45 q= 2.08

耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I	II	III	
		I. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$	
(5-4)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	$I_g / I_{g0} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_g / I_{g0}$	
(5-5)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(6)	一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 0.5$	$0.5 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 1.0$	$1.0 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un}$ かつ $GIS < 1.0$	
				$1.0 \leq GIS$	

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI<sub>so</sub>を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。